

「読んで 学んで 考える」学習を構想する

—新聞を学習に取り入れる—

お茶の水女子大学附属小学校

小野澤 由美子

はじめに

I 新聞を取り入れるということ

1 新聞のよさ

2 教科書の中の新聞教材

II 新聞を取り入れた学習をつくる

1 どのように取り入れたいのか

2 どんな力をつけたいのか

III 新聞を生かした学習の試み

1 2年間を見据えた指導計画

2 読んで学んで考える 平成22年9月～ 5年次の実践

3 読んで学んで考えを深める 平成23年4月～ 6年次の実践

IV 2実践からの考察

V まとめ 考えを深める「あなたにとってことばとは」

はじめに

「わかりやすいニュース」が大流行し、「週刊こどもニュース」初代お父さんである池上彰氏は、テレビ、ラジオ、雑誌に引っ張りだこ。お茶大でも講演があった。その池上氏の著書『小学生から「新聞」を読む子は大きく伸びる！』には、「新聞をよく読む子ほど学力が高い」ことが確認されていること、読解力がつき、世の中の動きに关心をもつことで学習意欲も向上すること、「自分の頭で考える」習慣が身につくことが書かれている。新聞教材もクローズアップされ、新聞を生かした学習をどうつくっていくかということが自分の問題意識となった。

「書くこと」の指導の中で、意見文を書かせるときの取材・選材については、気づいたこと、発見したことを毎日書き留めていき、書く題材をためておくことが大切だと考えている。新聞に対する問題意識とあいまって、「毎日、新聞に目を通し、気になった記事を1つ選び、一言コメントを書く」という実践を始めたことにした。

着任以来、低学年を担当することが多かったが、初めて5年6年と2年間受け持つ機会に恵まれ、この新聞をとり入れた学習を実践することができることになった。「自分の意見をもつこと、意見をまとめて伝えること」に重点を置き、「新聞を読んで、その記事から学んで、考える」学習を実践した。2年間を見据えての指導計画と、「書くこと」につながる実践を中心に提案したいと思う。

I 新聞をとり入れるということ

1 新聞のよさ

(1) 「読解力」を養うのに役立つ

「自分の考えをもつ」「自分で考える」ことが教育目標に掲げられることが多い。社会の一員として、世の中で起きていることに無関心でいることなく、課題に直面したときにはよく考え、自分で判断してたくましく実践していく子どもを育てたいと考える。考えるためには、考えるための知識と考えていく技能が必要であり、知識量を増やし、考える力を養わなくてはならない。そのためにはいかに「読解力」を身につけさせるかが課題となる。

「読解力」といっても、物語文では行間を読む力、説明文では文章そのものを理解する力が求められ、どちらも必要である。まずはどのような文章でも立ち向かって読んでいく姿勢が必要であるが、説明文で構成されている新聞を読むことは、知識を増やし文章そのものを理解する力を鍛えることにつながる。

また、「見出し」や「リード文」を読むことは、キーワードを見つけたり、要点をまとめたりする要約の指導にも役に立つ。

(2) 「語彙力」が身につく

新聞にはふだんの口語では使わない表現が使われる。政治、経済の専門用語も容赦なく出てくるので子どもにとってはハードルが高い。しかし、スポーツ面、文化面、あるいはコラムや投書欄など自分の興味をひく記事を見つけようと読むだけでもたくさんの言葉が目に入り、語彙が増える。また、多少難しい言葉が出てきても前後から意味を推測したり、実際に意味を調べたりして語彙を獲得しようとする「語彙力」を身につけるのに役立つ。

(3) 文章を書くときのモデルになる

新聞にはたくさん的情報がつまっている。また、情報の伝え方の種類が豊富であり、文章の書き方もさまざまである。論理的な文章の書き方を学べることはもちろんのこと、コラムや投書欄はエッセイの書き方につながる。自分が文章を書くときの題材選びにも役立ち、実際書くときにはモデルにもなる。

2 教科書の中の新聞教材

「NIE」とは「教育に新聞を」(Newspaper in Education) の略で、新聞を教材として学校の授業に活用することを促進する運動のことである。日本では1985年に始まった。学習指導要領の中でも新聞活用が盛り込まれ、2011年から実施されている。国語科では高学年「読むこと」の中に「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」と書かれている。

実際に教科書の中では次のような内容が扱われている。

出版社	学年	内 容	時 数
東京書籍	5年	記事の読み比べ	6
	6年	投書の読み比べ 説得力のある文章の書き方	6
光村出版	5年	新聞の構成	3
学校図書	5年	一般紙とスポーツ紙、全国紙と地方紙の読み比べ	6
	6年	メディア・リテラシーの情報を批判的に読む	6
三省堂	5年	「グループ新聞」を作る	8
	6年	興味をもった記事の感想を発表する	4

三省堂、光村出版の教科書を中心に、教科書の中では新聞がどのように扱われているのかをまとめてみる。

(1) 「メディアについて考える」(三省堂5年)

日常生活の中に浸透しているテレビや新聞などとも併せ、情報伝達の媒介を果たすメディアに着目させ、それぞれの特徴や役割、情報モラル等について考えていく教材。

学習指導要領の高学年の指導事項「話すこと・聞くこと」の「ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係づけること。」に対応している。

[学習目標] それぞれのメディアについて調べ、その特徴や役割、自分たちの意見や感想等、資料を効果的に活用して報告し合い、よりよい報告、説明のあり方について考える。

(2) 「グループ新聞」(三省堂5年)

地域のよいところを紹介する新聞をグループで一枚の新聞作りをするという教材。新聞を書くことは、これまで学習してきた感想文や日記、報告文などの「書く」活動よりも、目的や意図がいっそう明確になり、読み手をより意識した作文学習になる。

学習指導要領の高学年の指導事項「書くこと」の「ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。」に対応している。また、言語活動例「B 書くこと」の「ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。」を受け、身近な地域のよいところを見つけて新聞に表す。

4年生の「新聞でニュースを伝える」では、調べたことなどに基づき、組み立てを工夫して文章を書くなど、新聞記事を書くこと自体が目的であるが、5年生のこの単元では、そこから相手意識、目的意識を明確にして書くことへと発展している。

[学習目標] グループで、目的に合わせて記事に必要な取材をし、紙面の構成を工夫して新聞を作る。

(3) 「新聞を読もう」(光村5年)

編集のしかたや記事の書き方に注意して新聞を読んだり、資料を提示しながら話したりする単元。

新聞は、種々の内容・形態の文章、見出しやリード、写真・図表からなる。効果的な読み方を工夫する、要旨をとらえる、自分の考えを明確にして読むといった学習に適している。また効果的な読み方を身につけることにも適している。新聞には、見出しをひと通り読む(流し読み)、興味ある部分だけ読む

「読んで 学んで 考える」学習を構想する

(摘読), 関連記事を読む(関連読み), 投書を比べて読む(比べ読み)などさまざまな読み方がある。また、個々の興味に応じた話題が探しやすいという点では、「考えたいことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連づける」ことの学習にも適している。

[学習目標]・見出しやリード文から要旨をとらえたり、複数の新聞記事を読み比べることの意味や効果を知ったりする。・話題を決め、収集した知識や情報を関係づけて話す。

(4) 「このニュース、わたしはこう思う」(三省堂6年)

新聞やテレビなどから気になったニュースを選び、経験したことや調べたことと関係付けて自分の意見をまとめて、聞き手にわかりやすくスピーチすることを目的としている。

学習指導要領「A 話すこと・聞くこと」の「イ 目的や意図に応じて事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」に対応した教材。

II 新聞をとり入れた学習をつくる

1 どのようにとり入れたいのか

新聞を使った学習には、新聞というメディアについて学ぶことと、新聞を通してなんらかの知識や技能を身につけさせることの両面がある。多様な内容、さまざまな形態の文章に触れることが意義は大きく、効果的な読み方を身につけたり、漢字や語彙学習につなげることができる。また、人の生き方に触れる記事は子どもたちの生き方の参考にもなる。

まずは新聞を「読むこと」の指導に生かしたい。見出しや写真を読み、「ぱっと見て要点をつかむ」「必要な言葉に着目してざっと読む」ことを経験させ、読んで情報をキャッチし、知識を増やし、考える材料を蓄えさせたい。その中から自分の考えのもとになるものを選んだり、考えを広げていくために参考になることを見つけたりさせたい。最終的には自分の考えを書いたり、話したりすることで発信させたい。「自分で考え、自分の考えを書く」ということに重点をおきたい。

2 どんな力をつけたいのか

新聞を「読んで 学んで 考える」学習を通して育てたい力は

- 情報収集力・・・世の中の動きを知る。さまざまな情報に目を向ける。
- 読みとる力・・・内容を詳しく知る。ニュースの解説を読みとる。調べる。
- 選ぶ力・・・たくさんの記事の中から、自分が関心をもち、意見を述べられるものを1つ選ぶ。
- 記述力・・・端的にわかりやすく正確に伝える文章を書く。
- 伝えあう力・・・自分のことばでわかりやすく伝える。

友だちの考えを自分の考えと比べながら聞き、自分の考えに付け加えをする。

そのために「自分の意見をもつ→頭の中で端的にまとめる→簡潔に書く→わかりやすく伝える」という流れの学習を、目標をレベルアップさせながら繰り返す。

「自分の考えを書く」ことを重点に置くので、記述力をアップさせる手立ても併せて取り入れたい。

記述力アップのための4つの指導ポイント

- ◇意図的・計画的に指導する
- ◇書いて伝えたいこと(主題)を明確にする
- ◇記述のしかたを具体的に指導する
- ◇書くことの楽しさが分かる授業にする

これは、輿水かおり／清水 健／安田恭子編著『全教科で役立つ「記述力」UPの授業21』(明治図書)の内容をまとめたものである。書く力はそのときの1回の学習で身につくものではない。今回は「新聞」から記述の仕方を具体的に学び、情報を得ることの楽しさを味わいながら、らせん状に学習を計画し、2年間で、自分の伝えたいことを自分の考えや思いにぴったりのことばで書く力を身につけさせたい。

III 新聞を生かした学習の試み

1 2年間を見据えた指導計画

「気になるニュースを毎日書き留める」ことを帯单元として継続。5年次では、新聞を通して世の中の出来事を知り、関心をもった記事に対して自分の考えをもち、わかりやすく書くこと、相手にきちんと伝えることをねらいとした。6年次では、視野を広げ、視点を変えながら自分の考えを明確にし、わかりやすく伝える工夫をすること、他者の意見をとりいれ、自分の考えを練り直すことまでをねらいとした。

☆ 「新聞を読んで、自分の意見をもとう」<「書くこと」「話すこと・聞くこと」>

～ニュースひとことノートを毎日書く～

(1) このニュース、こう考える 第1弾 (5年 11月 5時間)

*ねらい 新聞に興味をもって、新聞に親しませる

- ・新聞のよさを知る…新聞からどんなことを学ぶことができるか話し合う 1時間
- ・「ニュースひと言ノート」を1ヶ月続ける
- ・「このニュース、こう考える」…自分で選んだニュースについて、自分の考えを書く 1時間
- ・「こんなニュースがありました」…全員がとっておきのニュースを紹介する 2時間
- ・話題にしたいニュースをクラスで1つ選び、話し合いをする 1時間

新聞記事から 心に残ったことひと言ノート 組 番 名前

日にち	気になった記事	今日のひと言
/ ()		
/ ()		
みんなで話し合いたい記事をメモしておこう！		

※このシートは1週間に1度提出。まずは興味のある新聞のページを開いてみるとから始めた。珍しい記事が出てきたら朝のスピーチの時間に紹介するなど、継続意欲を持たせる工夫が必要。

(2) このニュース、こう考える 第2弾 (5年 1月 4時間) <書くこと>

*ねらい 自分の意見をもち、相手にわかりやすく伝える

- ・「ひと言ノート」から、意見を書きたいと思うニュースを選び、意見を書く 1時間

「読んで 学んで 考える」学習を構想する

- ・ファミリーで持ち寄り、自分の意見を発表する 2時間
なぜそのニュースを選んだのかを必ず話す。話し合いのまとめを書く
- ・ファミリーで1つ、代表を選ぶ
- ・代表のニュースを発表する 1時間

☆2011. 3.11 東日本大震災

震災については、被害の様子を調べ、自分の体験と合わせて、5年の学年末に自分の新聞にまとめた

(3) このニュース、こう考える 第3弾（6年 5月 3時間）〈話すこと・聞くこと〉

*ねらい 震災の被害の様子、復興の状況を知ることで、「自分は何ができるか」を考えさせる

- ・「震災復興について」の記事を選んで、意見を書く 1時間
- ・ファミリーで話し合う 2時間
なぜそのニュースを選んだのかを話す
話し合いのまとめを書く

※今回は、自分たちも体験した大地震についての記事に限定した。被害の様子はもちろんだが、被災された方々がまだ2ヶ月も経っていないのに復興へ歩みを進めていることを知り、またそれを支えようとしている方々の思いを知ることで、自分ができることは何かということを考えさせたいと考えた。

新聞記事から 心に残ったことひと言ノート 組 番 名前

日にち	気になった記事	今日のひと言
	ここまで心に残ったことを書きとめておきましょう。	

※ひと言欄が狭すぎるという声があがり、3行分のスペースをとった

(4) このニュース、こう考える 第4弾 (6年 7月 5時間) <聞くこと・話すこと>

「これならわかる、このニュース」～ニュース解説者になろう～

*ねらい 自分の選んだニュースをわかりやすく伝えるにはどうしたらよいかを考え、プレゼンテーションの力をつける

- ・今一番気になるニュースをよく読み、簡潔にまとめ、それに対して意見を書く 1時間
- ・「プレゼン計画書」を書き、プレゼンに必要なものを作る。練習をする 1時間
- ・ファミリー内でプレゼンテーションをする 1時間
- ・おすすめのプレゼンの発表。そのニュースについて話し合う 1時間
- ・ニュース解説を聞いて、分かったことを書く 1時間

(5) 自分の考えの材料を集めよう 6年2学期 <「隨筆を書く」学習との関連>

帯单元

*ねらい 卒業文集に書く作文のテーマを決める

- ・新聞を読み、自分の考えのもとになる記事を拾う 家庭学習
新聞のさまざまな記事に目をむけ、自分の心にヒットする記事について簡単に書きとめていく
- ・卒業文集に向けて作文を書く 4時間

(6) ニュースからこう考える (6年 2月 4時間) <書くこと>

*ねらい 新聞記事の内容から自分の考えのテーマを決める

- ・「このニュース、こう考える」と「ニュースからこう考える」の違いについて話し合う 1時間
- ・正解の出ない、より上位の概念でくくったテーマを決め、それについて考える 1時間
- ・どのようにテーマを決めたのかファミリー内で発表しあう 1時間
- ・自分で決めたテーマについての考えを書く 1時間

2 読んで学んで考える「このニュース、こう考える」 5年次の実践より

新聞をとりいれた学習の1年目として、まずは新聞に親しみ、世の中の出来事に关心をもつことをねらいとした。「意見文を書く」学習を計画するとき、その題材にいつも悩む。多くの子どもが意見を持つことのできるテーマはなにか。ごみ問題、環境破壊、もっと学校をよくするためにには、など大切な問題ではあるが切実ではない。そこで、自分が意見をもてる題材、問題探しから始めたいと考えた。新聞を読み、気になるニュースの見出しとそのニュースに対する自由なひと言感想を書き溜めていく。この学習を始めると同時に新聞記事のスクランプを始める子どもも多かったが、とても気になるニュースに関しては意見文を書くためにその新聞をとって置くように指示した。

11月の「このニュース、こう考える 第1弾」では、新聞に毎日目を通すこと、テレビのニュースにも关心をもつこと、ひと言ノートを根気強く続けることをめあてとした。選んだニュースを発表することで、友だちがどんなニュースに关心をもっているかをしることができ、また自分が知っているニュースに関しての意見の発表に対して共感をもって聞くことができた。

新聞記事から、心に残ったことひと言ノート

日付	新聞に残ったこと	今日のひと言
11/15(月)	河野で来きる男が手に持つ道中で「ないよう」を強調しているのにびっくり。たのむよ さり猪口遼也さんこと、島崎和也といふ。これは手足を力いた人が倒れていたた ままで今年を生き残る。このイベントで今年を見直せばいいといふ。 来年まで今年を生き残る。このイベントで今年を見直せばいいといふ。 おもしろいイベントだった。	今日のひと言
11/16(火)	このイベントで今年を見直せばいいといふ。 おもしろいイベントだった。	今日のひと言
11/17(水)	ハイテクでしゃみの翠翠がおもてなし。 おもてなしは、日本にはまだないの? とても辛いことを思った。	今日のひと言
11/18(木)	イギリスのアマゾンが 高橋雅也こと 重千人ともニースが 今度はとても分かりやすいので見ていくのに、 なかなかいいの。はい。	今日のひと言
11/19(金)	今度はとても分かりやすいので見ていくのに、 なかなかいいの。はい。	今日のひと言
11/20(土)	シンマの公選争は 小平さんとかうん。 おもてなしは、日本にはまだないの? なかなかいいと思う。	今日のひと言
11/21(日)	最近の省内問題はすみれ 人の意見が全員同じならないのにと思った。	今日のひと言
11/22(月)	広州アジア大会で国基が スポーツの大会で盛上の競技があるのは おもしろいと思う。	今日のひと言
11/23(火)	ことを語りてユコアラ 私がが出てみたいと思ふ。 スピーチも面白いと思った。	今日のひと言
11/24(水)	広州アジア大会で国基が スポーツの大会で盛上の競技があるのは おもしろいと思う。	今日のひと言
11/25(木)	11月、おもてなしは、日本にはまだないの? 今日はいい感じに意見があつたけど、 やはり私はおもてなしに行かないと角った。	今日のひと言
11/26(金)	11月の意見は開かれること。 吉田の意見は、北朝三郎さんのが面白かった。 がんばること。 そんなに出来ないかもしれません。	今日のひと言
11/27(土)	メキシコの死者の日。 あの日のうちはまだ他の国にあるけれど、 どの国で先祖を大切にしているかと思った。	今日のひと言
11/28(日)	文章の種類 私はいつも気にしないで文章を見ているけれど、 いろいろな表現がみど思った。	今日のひと言
11/29(月)	ソウルに残るの。これだけ 南朝セサウドのいいいきが使えるので 大変だ。	今日のひと言
11/30(火)	広州アジア大会が28日、 開幕開幕したこと。 中国開幕式に1400人が 参加されたこと。 1400人が参加して開幕式をして、(私たちは)1400人が開幕式をして、 開幕式が開かれてよかったと思ふ。	今日のひと言
12/1(水)	スガツアーラー高さ500mを 入力アリーモードで地図の上を見られるようにする日 が来ます。	今日のひと言
12/2(木)	私も仄音に付いてやうを知つていて、 本当に流行っていたんだがと思った。	今日のひと言
12/3(金)	11月の意見は おもてなし。 吉田の意見を想像できるけれど、食べれないと思ふ。	今日のひと言
12/4(土)	吉田の意見を想像できるけれど、食べれないと思ふ。	今日のひと言
12/5(日)	スマスマード等 楽しとおもてなすので、かんもんぞうに見え 大変なんだと思ふ。	今日のひと言
	みんなで話し合いたい結果をメモしておこう!	今日のひと言

◇このニュース、こう考える 第2弾 1月 4時間

(1) 単元について

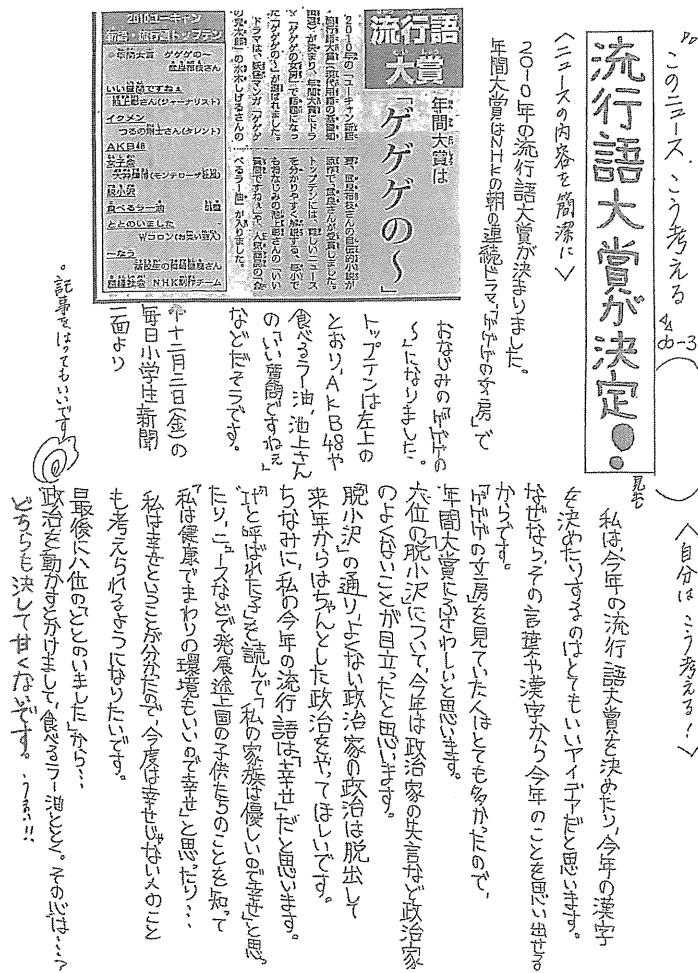
単元目標	集めた新聞記事から自分の一番関心のある記事を選び、自分の考えを書いてまとめる
------	--

自分の意見を持つには、その記事に関心をもち、その内容をきちんと理解しないといけない。9月の学習の後も「ひと言ノート」に記録しながら、自分の関心のある記事についてはその記事のスクラップもしてきている。選んだ記事についてよく調べ、理解し、その上で自分の考えを書く学習をする。

(2) 学習計画

- | | |
|---|-----|
| ① 「ひと言ノート」から、意見を書きたいと思うニュースを選び、自分の考えを書く | 1時間 |
| ② ファミリーで持ち寄り、自分の意見を発表する | 2時間 |
| ・なぜそのニュースを選んだのかを必ず話す。話し合ったことのまとめを書く | |
| ・話し合いの後自分の考えを見直し、意見を付け加えたり、訂正したりする | |
| ・ファミリーで1つ、クラス全体で発表する意見を選ぶ話し合いをする | |
| ③ 全体に出された意見について意見交換をする | 1時間 |

※第1弾では新聞に親しむことをめあてとした。気になる新聞記事の発表を通してさまざまなニュースを知り、それについての意見に対して共感したり、違う意見をもったりする学習をした。今回第2弾では、気になるニュースについて、その内容をよく理解して自分の意見を明確にすることをめあてとした。さらに、意見交換を通して自分の意見をもう一度考え方を改め直す学習をした。



3 読んで学んで考えを深める 6年次の実践

「このニュース、こう考える」から「このニュースからこう考える」へ

6年のことばの学習の核になることは考えを深めることと考えていた。そこへ5年から6年への進級を前に起きた東日本大震災。自分自身を見つめ直すことの必要性を強く感じた。視野を広げ視点を変えて自分の考えを深め、最終的には今の自分を見つめ直すことができることばの力を育てたいと考えた。

(1) このニュース、こう考える 第3弾 5月

① 単元について

単元目標	震災の被害の様子や復興の状況を知ることで、「自分は何ができるか」を考える
------	--------------------------------------

自分自身も体験した大震災に対しての思いを書き残すことが大事と考えた。被害はあまりにも大きく、ショックを受ける子どもたちも多くいた。その中で「奇跡の一本松」の記事は目を引いた。被災された方たちの悲しみに心を寄せながら、復興へ一步を踏み出している被災地の方々の力強さを学ぶために、今回は「震災復興」についての記事にしづらせて意見をまとめた。

② 学習計画

- ・震災についての記事を集め、心に残った記事を選び意見を書く

1時間

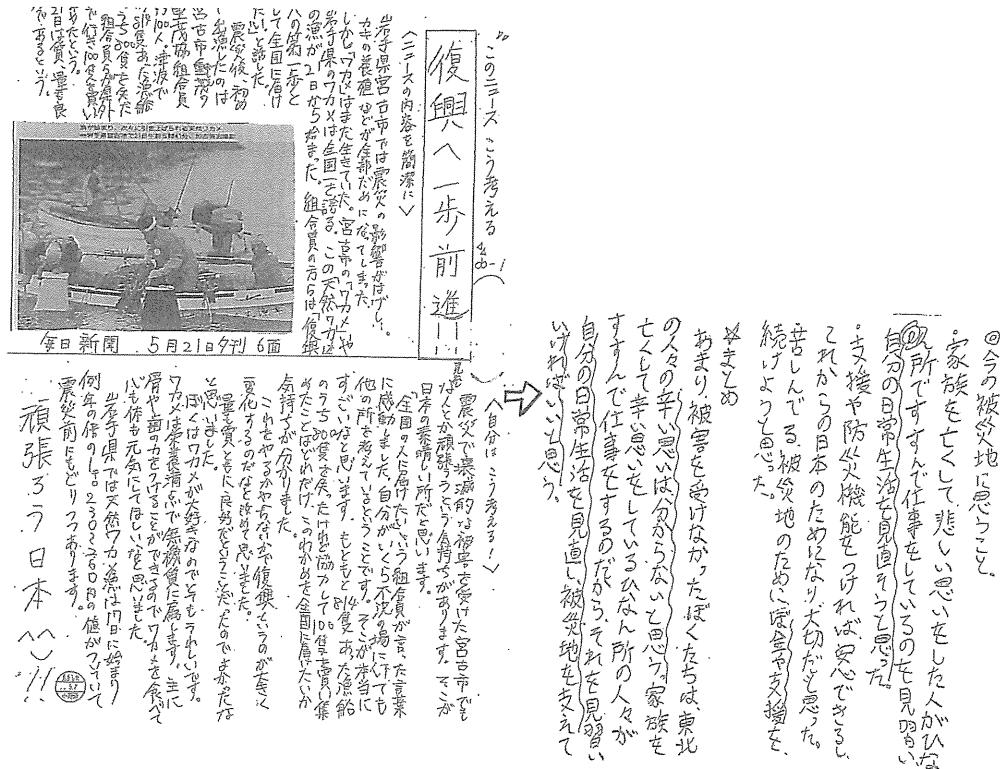
- ・意見交換をする

2時間

なぜその記事を選んだのかを話す

話題になった記事について、一人ひとり意見を言う

話し合ったことをまとめ、もう一度自分の意見を見直す



「読んで 学んで 考える」学習を構想する

(2) このニュース、こう考える 第4弾 7月

① 単元名 「これならわかる、このニュース」～ニュース解説者になろう～

② 単元について

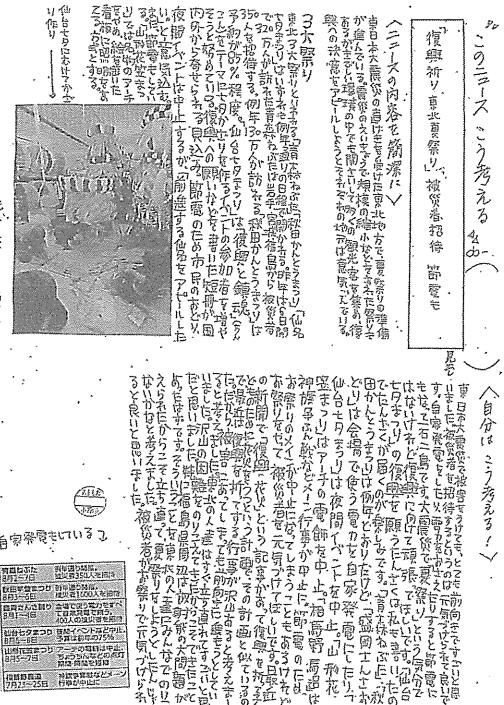
単元目標	自分の選んだニュースについてよく調べ、わかりやすく伝える
------	------------------------------

新聞を読むことの習慣もつき、新聞から幅広く情報を得られるようになってきている。今回は、選んだ記事についてよく調べ、わかりやすく解説する学習を組み立てた。プレゼンテーションの学習に重点を置いている。プレゼンに必要なものも自分で考え、工夫をこらすようにした。

③ 学習計画

- ・今一番気になるニュースをよく読み、簡潔にまとめ、それに対して意見を書く 1時間
- ・「プレゼン計画書」を書き、プレゼンに必要なものを作る。練習をする 1時間
- ・ファミリー内でプレゼンテーションをする 1時間
- ・おすすめのプレゼンの発表。そのニュースについて話し合う 1時間
- ・ニュース解説を聞いて、分かったことを書く 1時間

新聞記事から 心に残ったことひと音ノート 4 頁 番 名前	
日付	今日のねと音
6/13(金)	気になった見出し 原発作業員による被災地の復興活動の手帳が復興の意図を示す。到着したときに被災地で手帳を渡され、各々の手帳には被災地の状況や被災地での活動内容が記載されている。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/14(土)	福島第一原発の事故によって多くの犠牲者が出た。古川の水害では、多くの犠牲者が出た。古川の水害では、多くの犠牲者が出た。
6/15(日)	毎日新聞は、被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/16(月)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/17(火)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/18(水)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/19(木)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/20(金)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/21(土)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。
6/22(日)	被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。手帳は被災地で手帳を受け取った人に渡され、それをもとに手帳を提出する。



三河二ヶ流し合戦のアーティスト代表によるニュース解説

これならわかる、このニュース
～プレゼン計画書～

1. 東北の復興祈り 聞き方
（仙台七夕まつり、山形花盛まつり、宮城県おはなまつり、秋田竿燈まつり）

2. とくちう
①被災者を元気づけること。
②節骨ができますこと。（例：やるこにじょうじょう）
③復興に向かって東北が前進していくことをアピールできますこと。
④震度を削減したり電気を使うものは時限を短くしたり自家待避をすること。
⑤震度を増やすこと。
（例：震度後は震度をまぬがねたけとお祭り）
⑥震度を増やすこと。

青森ねぶた 被災者を350人招待する。
8月2~7日

秋田竿燈まつり 被災者を1600人招待する。
8月3~6日

盛岡さんまつり 被災者を400人招待する。全て自家待避。
8月1~4日

仙台七夕まつり 夜間イベントは中止。
8月6~8日 予算は前年の75%。
山形花盛まつり アーチは中止。ちょうど8月5~7日 なんどの点火は期間を矢立祭。

福島原発事故による被災者支援のための募金活動が実施される。この活動は、被災者の支援と同時に、東北の復興を願う心を伝える目的で行われます。

※いかに興味をひくニュースを選ぶか、いかに興味をひくプレゼンにするか、子どもたちは意欲的に取り組んだ。NHK「週刊子どもニュース」を見ている子どもも多く、それが1つのモデルになつたこともよかったのではないか。

(3) 自分の考え方の材料を集めよう 6年10月～11月 「隨筆を書く」学習との関連

*ねらい 卒業文集のテーマを決める

- ・新聞を読み、自分の考え方のものとなる記事を拾う

家庭学習

- ・卒業文集に向けて作文を書く

4時間

(4) ニュースからこう考える 6年 2月

2月24日(木) 9:00～9:40

- ① 単元名 考えを深めよう～視点を変えて～

② 単元について

単元目標	新聞記事からテーマを決め、考えを交流することで違った視点からの考えを取り入れて、自分の考えをつくりあげる
------	--

ことばの学習の締めくくりのこの1年間で、「自分の考えを明らかにし、相互交流を通してさらに考えを深めることができる」ことばの力を育てたいと考えた。他との違いから学ぶためには、さまざまな視点があることを理解し、自分の中にもさまざまな視点をもつことが必要ではないか。1学期には「宇宙時代に生きる」(三省堂6年)を読み、宇宙飛行士野口聰一さんの、「宇宙という視点をもとう」というメッセージを受けとった。視野を広げていくことの大切さを知り、「宇宙時代を生きるわたしは…」というタイトルで文章を書いた。

一方帯单元として、「このニュース、こう考える」という新聞記事を使った学習も継続的に行ってきた。新聞に目を通すことが習慣になるように、「気になるニュース ひとことノート」という用紙を使い、ニュースに対する一言感想を書きためてきた。2学期には、「ニュース解説者になろう!」という単元を組み、記録したニュースの中からみんなに伝えたいニュースを選び、事実と意見を分け、分かりやすく伝える学習をした。しかし、ニュースに关心をもつようになったものの、内容をしっかりと理解もせず、根拠もはつきりしないような意見文が多いという実態もある。

そこで今回は、「ニュースからこう考える」という学習に切り替えた。新聞記事から読み取ったことを、自分にひきつけて考えていく力を育てたいと考えたからだ。心を動かされた記事を選び、そこからキーワードを拾い、考えるテーマを決める。友だちと考え方を交流することを通して自分の考えをつくりあげていく学習を組み立てた。

3 学習指導計画(全6時間)

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| (1) 選んだニュースを持ち寄り、グループで交流する | ・・・ 1時間 |
| (2) 心を動かされたニュースを選び、テーマを考える | ・・・ 1時間 |
| (3) 選んだ新聞記事の見出しとキーワード(テーマ)を発表する | ・・・ 1時間 |
| (4) いくつかテーマを選び、みんなで話し合う | ・・・ 1時間 (本時) |
| (5) 自分の考え方をつくりあげる | ・・・ 1時間 |

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- テーマについての考え方を交流させ、視点の違う考えに気づき、自分の考え方を見直す。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○テーマ一覧から気づいたことを発表する	・自分の経験を語ることができたり、自分にひきよせて考えられるテーマはどれかを考えさせたい
○選ばれたテーマを考えた子どもは、そのテーマに決めたわけを話す	・考えの道すじがわかるように話させる
○みんなで話し合う	・自分の経験や体験に基づいた考えを話すようにする
○自分の考えをふりかえる	・違った視点が、考え方を見直すきっかけになることに気づかせたい

☆ ニュースからこう考える ☆

新聞の見出し	キーワード（自分の考えのテーマ）	メモ
二人の小学生、最年少ピアニスト	ピアノと一緒に成長、夢	
普天間基地の分離	沖縄の大きさ、土地のありがたさ	
少子高齢化すすむ	増えない子ども、将来不安	
昔の火星は水の星!?	失敗から成功へ	
海底トンネル5人不明、エレベーター転落死	ミスと命のはかなさ	
豪華客船沈没、船長逃げる	自己中心的な船長について	
食物連鎖 ランク付け	人間への影響	
電気で生きる生物存在か	どのように生物が生まれたか	
料理をスマホで撮るのはどうなのか	大人のマナーについて	
動かすか否か 原発	住民投票	
今年はうるう年、うるう年のなぞ	なぜうるう年があるのか→日にちと地球の関係	
しづちゃん五輪出場なるか	ボクシングへの想い→夢	
普天間基地	基地を移動させること	
ニジノスケ誕生	品種改良→私と自然とのつきあい方	
天皇陛下のバイパス手術	バイパス手術について	
動かすか否か みんなの考え示す	住民投票	
震災から11ヶ月、がれき置き場で遺体発見	家族のつながり	
イルカ計画	近代社会と自然との両立	
犬のアカデミー賞創設 犬より人に熱が	犬と人	
ただいま！ハワイアンズ	努力するということ	
赤ちゃんペットいつ販売？ペットに何を求めるかー	動物の命と責任	
海底トンネル浸水事故	人のミスについて	
視覚障害者のためのCD作り	人に役に立つ仕事	
見分けがつかない!? 人間酷似ロボット	人間とロボットの関係について	
3・11 ゴールは福島	若い世代の力強さ、たくましさ	
大阪府都構想	府と市の権利	
温泉で雪崩3人死亡	人を犠牲に、自然から学ぶ事	
始祖鳥の翼は黒かった	色が必要なわけ	
いじめ 4年ぶり増加	心の痛みと体の痛み	
「冷感タオル」で湿疹、かぶれ	自分でできる安全対策	
オレオレ詐欺 都内で高額被害相次ぐ	欲について	

※今回の学習では、選んだニュースそのものについて意見を書くことをさらに発展させ、そのニュースからより広い、より深い概念をテーマにすることに挑戦した。これは主題を読み取ること、要旨を捉えることにつながる学習と考えたからである。上記の表の太字で示したテーマが上位概念までテーマを引き上げていると考える。「失敗から成功へ」というテーマは、火星探査機の着陸成功の裏には、これまでのシャトルの爆発事故などさまざまな失敗があることをふまえている。「3・11ゴールは福島」は大学生を中心に若者が九州から福島まで駆けつけてたすきをつなぎだというニュースである。やり遂げた若者に共感し、自分もその世代だということに喜びをもったテーマといえる。

IV 2 実践からの考察

新聞をとり入れた「読んで学んで考える」学習を2年間計画で実践してきたが、果たして知識を広め、考える深めることにつながったのか、子どものふり返りを中心に考えていきたい。

まずは、新聞をとり入れたことについて考える。

A児 毎日新聞を読むのが楽しくなりました。前はお父さんとお母さんがニュースについて話しているとき聞いているだけだったけど、今は一緒に意見交換ができる、楽しいです。

M児 前は、ほぼスポーツにしか興味がなかったけれど、たくさんの記事を読んでみて、「ふつうの記事にもこんなにおもしろくわかりやすいのがあるんだ～」と気づいて、新聞を読むのが楽しくなった。

S児 これまで新聞を軽く全部の記事に目を通すだけだったけれど、この「新聞記事ひとことノート」を続けて、毎日1つの記事を深く読んで、意見をもつことができた。

毎日ひとことノートを続けるのは大変だったが、新聞は読んでみるとおもしろい、と感じる子が多くいた。テレビのニュースは映像がありわかりやすいが、新聞で活字を読むほうが頭に入る。そして何よりも新聞記事は取つておけるよさがあることに気づいた。「ひとことノート」はいわば半強制的に始めたものであるが、このおかげで毎日新聞を広げて目を通す習慣ができ、新聞のさまざまな情報から知識を得ることに楽しさを感じることができた。隅から隅まで全部読むのではなく、「気になるニュースを読む」という自由さがよかったです。また、見出しやリードを読んで気になるものは本文を読んでいく、という新聞そのもののよさも毎日続けて読んでいくうちに自分でわかつていったことがよかったです。それは、「キーワードから本文へ」「本文からキーワードをみつける」という読み方のこつを知ることになり、主体的に読む力を育てることにつながるのではないか。

次に、この新聞をとり入れた学習によって考え方を深めることができたのかについて考える。

T児 自分の選んだニュースについて意見を書くことが簡単になった。1つだけではなく、いろいろなニュースについてすぐに感想がうかんできた。

K児 気になったニュースについて意見を書くとき、わからないことを調べてから書くようになった。ニュース解説をしたときには、わかりやすく伝えられるようよく調べて、プレゼンの工夫をした。

H児 この学習は答えがあつていいというのではなくて、自分の意見をもつことが大事だと思った。

正解のないことがらについて考えることも大事である。今の子どもたちは正解を求めたがる。少しでも早く答えをみつけることに必死である。過程を大事にする学習は本校の教育理念でもあるが、「ことば」の学習の担う役割は大きい。

考るということはもつてることばの力の総力戦である。新聞をとり入れた今回の学習は、考る力を育てるのに有効であると考える。新聞記事の内容を正確に読み取る力。わからないことは自分で調べようとする力。そして自分の考えをもち、それを書き表し伝え合い、わかり合おうとする力のすべてを必要とする学習であるからだ。また、学習のねらいも2年間で少しづつハードルをあげていくことが大事である。発表に関しても、5年の最初の学習では「お気に入り」のニュースを紹介し、さまざまなニュースを知ることをねらいとしたが、ニュースについての自分の意見を発表することをくりかえし、

6年では「ニュース解説者になる」という学習を組み、わかりやすい「解説」をねらいとした。

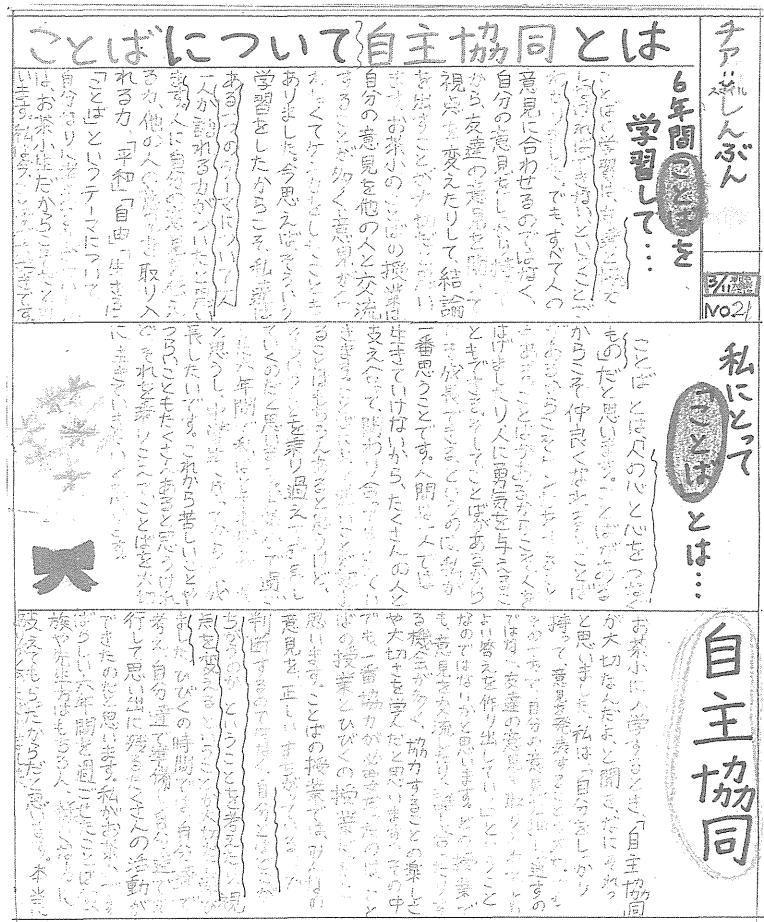
この学習は、たくさんの情報から必要な内容を選び出し、考えるテーマを自分で決め、考えたことを書いて伝え合う、「自問自答」という主体的な学習スタイルにつながるものであると考える。しかし、書くことの技能的な力をどのように学習計画に入れていくかということ。また、選んだニュースも違う、考えも違うという中で、どれだけ相互交流を深めていけるのかということ。さらに「考える力」をどう評価するのかは大きな課題である。毎日取り組むひとことノートや意見文など、子どもに書かせたものに目を通していく教師の負担は大きい。年間の指導計画の中にどのように位置づけるかは、目の前の子どもたちの実態を捉えてということになろう。その子どもたちにどんな力をつけたいのかをいつも念頭において学習を組み立てていきたい。

V まとめ 考えを深める「あなたにとってことばとは」

2011年3月11日、5年の学期末、6年への進級が見えてきたその日に東日本大震災を体験した。「生きることを見つめ直し、自分に何ができるか、自分自身を問い合わせた。

持ち上がった6年の「ことば」の学習では、子どもたちに、視野を広げ、視点を変えて自分自身を見つめさせたいと考えた。新聞を読み、自分の身の回りから世の中に目を転じ、日本の出来事、世界の出来事を知ることで今の自分の置かれた状況が見えてくる。特に震災のニュースは目を背けずに向き合わなくてはいけない。またさまざまな形の支援があり、いろいろな形で復興の一歩が踏み出された。選んだニュースや意見の交流から、人によって感じ方や目の向けどころが違うこともわかる。視点の違いは考え方を見つめ直すきっかけとなる。考えを深めていくことができることばの力を育てたいと学習を進めていった。卒業を間近にした子どもたちは、6年間取り組んできた新聞作り学習のまとめとして、小学校で学んだことをふり返って新聞を書いた。その中に「あなたにとってことばとは」というコーナーを入れた。「ことばとは何か」という正解のない問いに対する考えが、この「考えを深める」学習の成果となっていればよいと思っている。

- ・ことばとは、私たちが生きていく中で、人と人が自分の気持ち、思い、考えなど、何を伝えるにも大切なものです。
 - ・コミュニケーションをとるもの。お互いを保つもの。人は一人では生きていけない。たくさんの人々が支え合うのだとしたら、コミュニケーションが必要になってくる。自分が伝えたいことを早く正確に伝えるもの。
 - ・ズバリ「心」。発するだけで通じ合うことのできる便利なものだけれど、一言で相手を傷つけ、誤解させてしまう怖いものもある。でもそれ以上に、人の心を動かしたり温めたり、いっしょに分かち合うこともできる大切なものです。人はことばすなわち「心」と「心」で支えあっている。
 - ・人は、自分が話すことばに自分の思いをこめて聞く人に伝える。ことばは思いを伝えるものであり、思いをこめるもの。
 - ・人は気持ちそのもの。人を思いやることばは思いやりそのもの。愛情を表現する言葉は愛情そのものの。
- ただ人間は複雑な感情を持っているので、自分が思った気もちと別な気もちに相手がとらえてしまうことを克服しないといけない。
- ・ことばとは人とのつながり。生きることそのものもある。



〈参考・引用文献〉

お茶の水女子大学附属小学校 (2008) 『相互交流能力を育てる「意見・説得」学習への挑戦』明治図書出版.

池上彰 (2009) 『小学生から「新聞」読む子は大きく伸びる!』すばる舎.

輿水かおり、清水健、安田恭子、山田敦子 (2011) 『どの子も書ける! 全教科で役立つ「記述力」UPの授業21』明治図書出版.

お茶の水女子大学附属小学校 (2011) 第73回教育実際指導研究会発表要項.